

平成21年8月期 第2四半期決算短信

平成21年4月14日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 ウェストホールディングス
 コード番号 1407 URL <http://www.west-gr.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務経理部 部長
 四半期報告書提出予定日 平成21年4月14日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 吉川 隆
 (氏名) 椎葉 栄次

TEL 082-503-3900

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年8月期第2四半期の連結業績(平成20年9月1日～平成21年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年8月期第2四半期	8,921	△44.7	△63	—	△209	—	△720	—
20年8月期第2四半期	16,139	118.6	322	197.7	102	△15.5	△757	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年8月期第2四半期	△91.71	—
20年8月期第2四半期	△96.41	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年8月期第2四半期	12,226	2,092	16.7	68.84
20年8月期	11,948	1,294	10.2	155.24

(参考) 自己資本 21年8月期第2四半期 2,040百万円 20年8月期 1,219百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年8月期	—	—	—	—	—
21年8月期	—	0.00	—	—	—
21年8月期 (予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式(非上場)の配当の状況については、3ページ「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

3. 平成21年8月期の連結業績予想(平成20年9月1日～平成21年8月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,158	△19.1	754	37.8	558	184.3	37	—	4.75

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年8月期第2四半期 7,856,000株 20年8月期 7,856,000株

② 期末自己株式数 21年8月期第2四半期 一株 20年8月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年8月期第2四半期 7,856,000株 20年8月期第2四半期 7,856,000株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値を異なる場合があります。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類の株式に係る1株当たり配当金の内訳及び配当金総額は以下のとおりです。

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
A種優先株式					
20年8月期	— —	— —	— —	— —	— —
21年8月期	— —	— —	— —	— —	— —
21年8月期(予想)	— —	— —	— —	— —	600 00

(注) 平成21年8月期(予想)の1株当たり年間配当金は、定款の定めに従い年間配当率6%で算出しております。

・定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、輸出の大幅な減少、過剰感を背景とした設備投資の減少により企業収益は6四半期連続の減益となり、雇用情勢も急速に悪化してきております。また、世界的な金融危機の深刻化や世界景気の一層の下振れ懸念、株式市場の変動の影響など、国内景気をさらに下押しするリスクが高まっており、個人消費も低迷しております。

当社グループが属する住宅建設業界におきましても、1月の持家、貸家および分譲住宅の着工数が前月比4.4%減の年率95.7万戸に減少するとともに、マンション販売在庫数が高い水準にあることから、当面注視しなければならない状態が続くと見込まれます。

このような経済環境下において、当社グループでは建物保全型リフォーム（屋根、外壁、耐震工事等）と環境対応型リフォーム（太陽光発電システム・オール電化工事等）に主要な経営資源を集中し、高付加価値商品の開発や一層の生産性の向上を目指してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は89億21百万円となりました。

利益面では、戸建住宅事業の不振や仕掛在庫の評価損計上などにより営業損失は63百万円となり、経常損失は優先株式等の発行による株式交付費86百万円を営業外費用に計上したため2億9百万円となりました。また、「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号）が適用されたことに伴い棚卸資産の評価基準及び評価方法を変更しており、期首棚卸資産に含まれる変更差額を特別損失として3億72百万円計上したことなどにより、四半期純損失は7億20百万円となりました。

なお、当社グループでは、前連結会計年度から第1四半期連結会計期間末まで「継続企業の前提に関する重要な疑義」が存在していましたが、当該状況の解消策としての資本増強が完了したため、当第2四半期連結会計期間以降、当該状況は解消しております。

なお、事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

① 住宅リフォーム事業

住宅リフォーム事業においては、

- ・㈱骨太住宅に係る建物保全型リフォームは、消費の急激な低下に対応しきれずに、10月度を除いて計画比未達となりました。
- ・㈱サンテックに係る環境対応型リフォーム（一般住宅向け太陽光発電システム及びオール電化製品の直接販売・施工）は、国が一般住宅への太陽光発電システム設置を支援する平成21年度「住宅用太陽光発電導入支援対策費補助金」が1月中旬から導入されたことに伴い、その直前に一時的な買い控えが見られましたが、ほぼ堅調に推移いたしました。
- ・㈱ハウスケアに係る最大手家電量販店の代理店方式による太陽光発電システム及びオール電化製品の販売・施工は、増加傾向にあり、計画を上回る伸びを示しました。

以上の結果、売上高は69億90百万円となりましたが、粗利益率の高い建物保全型リフォームの売上高が落ち込んだことを主因として、営業利益は4億4百万円となりました。

② 戸建住宅事業

戸建住宅事業の主力を担う㈱明野住宅の分譲住宅販売は、北摂圏における戸建住宅市況の買い控えが月を追うごとに加速しており、早期の販売に向けて広告宣伝費を前倒投入したにも係らず、売上高は7億17百万円にとどまりました。また、売上高の落ち込みに加えて、3月中旬に大阪府内所在の仕掛在庫を他の事業者に一括売却したことで生じた96百万円の売却損を「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号）の適用に伴い売上原価に評価損として計上したことにより、営業損失は1億48百万円となりました。

③ 土地・建物開発事業

土地・建物開発事業においては、前期に不動産事業から完全撤退し、主として松本建設㈱が公共建設事業に携わっております。不採算工事の受注を抑制したことにより、売上高は7億59百万円となりましたが、人員減を初めとした費用削減により黒字転換し、営業利益は14百万円となりました。

④ 土木事業

土木事業においては、松本建設㈱が全面的に係わっておりますが、官公受注案件の完工時期が3月に集中していることから、売上高は4億11百万円、営業利益は22百万円となりました。

⑤ その他事業

その他事業の売上高は40百万円、営業損失は41百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産・負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ、2億78百万円増加し、122億26百万円となりました。また、負債につきましては、前連結会計年度末比5億19百万円減少し101億34百万円、純資産につきましては、前連結会計年度末比7億97百万円増加し20億92百万円となりました。主な内容は以下のとおりであります。

(資産)

資産の増加の主な要因は、現金及び預金が優先株式の発行及び有利子負債の削減等により13億21百万円増加し、住宅リフォーム売上高の増加及び大手取引先からの売掛金回収期間の短縮に伴い完成工事未収入金が2億49百万円増加した一方で、分譲住宅の販売並びに「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用を主因として仕掛販売用不動産が7億44百万円減少したことによるものであります。

(負債)

負債の減少の主な要因は、有利子負債の削減等により短期借入金及び長期借入金が合計9億39百万円減少した一方で、住宅リフォーム売上高の増加に伴い工事未払金が6億25百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、優先株式の発行により資本金及び資本準備金が15億円増加した一方で、四半期純損失を7億20百万円計上したことを主因とするものであります。

② 連結キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は(以下「資金」という。)は、前連結会計年度に比べ14億22百万円増加し、27億84百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は6億79百万円となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純損失を7億17百万円計上しましたが、このうち減価償却費76百万円、のれん償却額1億7百万円、たな卸資産評価損4億92百万円並びに投資有価証券減損損失69百万円は資金流出を伴わない非資金取引であることによるものであります。また、住宅リフォーム売上高の増加に伴い仕入債務が5億90百万円増加した一方で、大手取引先からの売掛金回収期間の短縮に伴い売上債権の増加は1億65百万円に留まったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、得られた資金は2億61百万円となりました。主な要因は、定期預金の解約による払い戻しによる収入及び預入の差額2億75百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、得られた資金は4億81百万円となりました。主な要因は、優先株式の発行による収入14億13百万円と長期借入金の返済を初めとした有利子負債の純減額9億39百万円の差額によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年8月期の連結業績予想につきましては、第2四半期の業績等を考慮して、平成20年10月10日付当社「平成20年8月期決算短信」で発表いたしました数値を変更しております。詳細は、本日発表の「平成21年8月期第2四半期累計期間(連結・個別)連結業績予想との差異及び通期(連結)業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績等を使用して貸倒見積高を算定しております。

② 棚卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

③ 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度末に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

④ 法人税等の算定方法

法人税等の納付額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 「四半期財務諸表に関する会計基準」の適用

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

② 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更

棚卸資産

通常の販売目的で保有する棚卸資産については、従来、主として個別法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として個別法による原価(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。

これにより、営業損失、経常損失は、それぞれ119,993千円、税金等調整前当期純損失は492,660千円増加しております。なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年2月28日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,282,720	1,960,837
受取手形及び売掛金	209,101	292,318
完成工事未収入金	1,195,301	946,140
商品	106,333	113,744
販売用不動産	151,191	277,213
仕掛販売用不動産	1,694,565	2,439,141
未成工事支出金	858,048	349,397
貯蔵品	8,242	7,712
その他	796,776	1,158,236
貸倒引当金	△170,901	△145,095
流動資産合計	8,131,380	7,399,646
固定資産		
有形固定資産	1,836,670	1,868,264
無形固定資産		
のれん	724,524	831,223
その他	20,646	21,648
無形固定資産合計	745,170	852,872
投資その他の資産		
投資有価証券	346,979	471,360
長期貸付金	300,471	332,126
その他	1,450,714	1,610,730
貸倒引当金	△584,593	△586,575
投資その他の資産合計	1,513,572	1,827,641
固定資産合計	4,095,413	4,548,778
資産合計	12,226,794	11,948,425
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	401,568	436,507
工事未払金	2,395,662	1,769,963
短期借入金	3,834,457	3,515,399
未払法人税等	16,120	108,874
賞与引当金	22,845	23,311
その他	1,160,310	1,231,775
流動負債合計	7,830,963	7,085,831
固定負債		
長期借入金	2,120,736	3,378,910
退職給付引当金	67,036	80,956
その他	116,030	108,137
固定負債合計	2,303,802	3,568,004
負債合計	10,134,766	10,653,835

(株)ウエストホールディングス(1407)平成21年8月期第2四半期決算短信

(単位:千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年2月28日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,961,620	1,211,620
資本剰余金	949,848	918,848
利益剰余金	△817,844	△816,349
株主資本合計	2,093,623	1,314,118
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△52,829	△94,588
評価・換算差額等合計	△52,829	△94,588
新株予約権	7,136	—
少数株主持分	44,097	75,060
純資産合計	2,092,027	1,294,589
負債純資産合計	12,226,794	11,948,425

(2)四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年9月1日 至平成21年2月28日)
売上高	8,921,215
売上原価	6,192,144
売上総利益	2,729,071
販売費及び一般管理費	2,793,047
営業損失(△)	△63,976
営業外収益	
受取利息	7,526
その他	25,711
営業外収益合計	33,238
営業外費用	
支払利息	80,477
株式交付費	86,210
持分法による投資損失	2,851
その他	8,832
営業外費用合計	178,372
経常損失(△)	△209,109
特別利益	
貸倒引当金戻入額	4,026
固定資産売却益	51
保険解約返戻金	32,733
特別利益合計	36,811
特別損失	
固定資産除却損	16,114
たな卸資産廃棄損	5,540
たな卸資産評価損	372,667
投資有価証券売却損	31,839
投資有価証券評価損	69,764
訴訟関連損失	49,083
特別損失合計	545,011
税金等調整前四半期純損失(△)	△717,310
法人税、住民税及び事業税	11,148
法人税等調整額	△1,374
法人税等合計	9,774
少数株主損失(△)	△6,590
四半期純損失(△)	△720,494

(3)四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年9月1日 至平成21年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△717,310
減価償却費	76,953
のれん償却額	107,155
賞与引当金の増減額(△は減少)	△466
貸倒引当金の増減額(△は減少)	23,823
受取利息及び受取配当金	△10,142
支払利息	80,477
株式交付費	86,210
固定資産売却損益(△は益)	△51
固定資産除却損	16,114
投資有価証券評価損益(△は益)	69,764
投資有価証券売却損益(△は益)	31,839
売上債権の増減額(△は増加)	△165,943
たな卸資産の増減額(△は増加)	346,287
前渡金の増減額(△は増加)	40,097
仕入債務の増減額(△は減少)	590,758
未成工事受入金の増減額(△は減少)	138,925
未払金の増減額(△は減少)	△30,403
前受金の増減額(△は減少)	△30,545
その他	169,285
小計	822,833
利息及び配当金の受取額	19,463
利息の支払額	△75,425
法人税等の還付額	8,052
法人税等の支払額	△95,082
営業活動によるキャッシュ・フロー	679,841

(単位:千円)

当第2四半期連結累計期間
(自平成20年9月1日
至平成21年2月28日)

投資活動によるキャッシュ・フロー	
投資有価証券の売却による収入	73,870
投資有価証券の取得による支出	△1,869
有形固定資産の売却による収入	51
有形固定資産の取得による支出	△4,595
無形固定資産の取得による支出	△215
定期預金の払戻による収入	469,370
定期預金の預入による支出	△194,000
敷金及び保証金の回収による収入	11,648
敷金及び保証金の差入による支出	△97,893
短期貸付金の回収による収入	25,905
短期貸付けによる支出	△27,177
長期貸付金の回収による収入	46,490
長期貸付けによる支出	△14,835
子会社株式の取得による支出	△25,000
その他	11
投資活動によるキャッシュ・フロー	261,762
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	135,000
長期借入れによる収入	195,000
長期借入金の返済による支出	△1,269,116
株式の発行による収入	1,413,789
新株予約権の発行による収入	6,426
配当金の支払額	△72
財務活動によるキャッシュ・フロー	481,026
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,422,631
現金及び現金同等物の期首残高	1,341,808
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,764,439

(株)ウエストホールディングス(1407)平成21年8月期第2四半期決算短信

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結会計期間(自平成20年12月1日至平成21年2月28日)
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

① 事業の種類別セグメント情報

当第2四半期連結累計期間(自平成20年9月1日至平成21年2月28日)

(単位:千円)

	住宅リフォーム事業	戸建住宅事業	土地・建物開発事業	土木事業	その他事業	計	消去又は全社	連結
I 売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	6,990,799	717,886	759,960	411,872	40,696	8,921,215	—	8,921,215
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	6,990,799	717,886	759,960	411,872	40,696	8,921,215	—	8,921,215
営業費用	6,586,017	866,052	745,603	389,192	82,553	8,669,418	315,772	8,970,491
営業利益又は営業損失(△)	404,782	△148,166	14,356	22,680	△41,856	251,796	(315,772)	△63,976

(注) 1. 事業区分及び各区分の主な内容

事業区分は事業の内容を勘案して、次のとおり区分しております。

住宅リフォーム事業	住宅全般の総合リフォームの施工販売(直営及びフランチャイズ展開)事業
戸建住宅事業	土地付戸建住宅施工販売及び他の戸建住宅事業者からの施工請負事業
土地・建物開発事業	非木造建築物(土地・建築等)の施工・販売及び、リフォーム事業
土木事業	公共土木及び民間宅地造成事業
その他事業	建材業者への材料販売等

2. 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用(315,772千円)の主なものは、当グループ管理部門に係る費用であります。

3. 会計処理の方法の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号平成18年7月5日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益は、住宅リフォーム事業23,670千円、戸建住宅事業96,323千円減少しております。

② 所在地別セグメント情報

当第2四半期連結累計期間(自平成20年9月1日至平成21年2月28日)
在外子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

③ 海外売上高

当第2四半期連結累計期間(自平成20年9月1日至平成21年2月28日)
海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期連結累計期間において、「棚卸資産の評価に関する会計基準」が適用されたことに伴い119,993千円を売上原価、372,667千円を特別損失に計上したこと等により、720,494千円の四半期純損失となりました。また、優先株式及び新株予約権の発行により、総額1,506,426千円の払い込みを受け、資本金が750,000千円、資本準備金が750,000千円及び新株予約権が6,426千円増加いたしました。また、資本準備金1,000,000千円を取り崩し、その他資本剰余金に振替を行い、その後のその他資本剰余金で繰越利益剰余金△718,999千円を欠損補填しております。これにより、株主資本は2,092,027千円となっております。

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

科目	前年同四半期 (平成20年8月期 第2四半期)
	金額(千円)
I 売上高	16,139,461
II 売上原価	12,919,172
売上総利益	3,220,289
III 販売費及び一般管理費	2,898,002
営業利益	322,286
IV 営業外収益	25,468
V 営業外費用	245,519
経常利益	102,235
VI 特別利益	29,515
VII 特別損失	1,094,184
税金等調整前当期純利益	△962,434
税金費用	158,600
少数株主損益	△363,615
四半期純利益	△757,419